

柴田 英昭

Shibata Hideaki



淀川で始まったゴミアート

真庭市出身のアーティスト「淀川テクニク」こと柴田英昭さんがアートの道を志したのは、20年ほど前。「その頃は、いろいろ実験的な試みをしていました。みんなが驚いてくれることがしたい、変わったことがしたいと思っていて。そんなときに大阪の淀川のイベントで、ゴミを使って何か出来ないかと知人に声をかけられたことがゴミアートの始まりです」と当時を振り返ります。

柴田さんはイベントに向け、友人と2人で河川敷のゴミを集めてモニュメントを作成しました。このことがきっかけで淀川テクニクというアーティスト名が誕生し、1人で活動するようにな

真

MANIWA BITO

庭人

ゴミって何だろう

「淀川テクニクと名乗るようになりました。別に「ゴミ」じゃなくてもいいんです。みんなで何かちよつとずつ持ち寄って、それが集まることができるような作品を、分業したり、入り乱れたりしながら、みんなの意思が入ってきて、わーっと作っていくというのも、これはこれで好きなんです」と話す柴田さん。今でも分業によって作品をつくることはよくあるのだそう。

柴田さんの作品は「真庭のシシ」や「宇野のチヌ」のようにゴミを使ったものが多くあります。ごみについて話を聞いてみると、「例えば、

みんな砂浜にある貝殻やサンゴの残骸とかはきれいだって思うでしょ。プラスチックのゴミだって、もともとは地球の中に存在していたものでできているのに、みんなに嫌われている。どうしてでしょうかね」と、深い問いが返ってきました。柴田さんがゴミを使ってつくった作品たちを見てみると、皆さんにもこの問いが聞こえるかもしれません。

昨年作成され一躍話題になった「真庭のシシ」



智頭駅前
作品制作



柴田英昭さん(鳥取県智頭町)

真庭市物出身。
アーティスト名「淀川テクニク」として、
2003年に大阪府の淀川河川敷を拠点に活動を開始。
ごみや漂流物で制作を行う。
玉野市の宇野港に常設されている作品
「宇野のチヌ」が特に有名。

